

学校法人 尚綱学園 広報誌
SHOKEI EDUCATIONAL INSTITUTION
PUBLIC INFORMATION

礎

ISHIZUE

2007. Spring vol.08

礎 コラム あた・まの話

「あたま」という言葉を辞書で調べると

(一)人・動物の首から上、先の部分、かしら、こうべ (二)頭脳またはその働き

(三)物の上端 (四)上に立つ人 —— などの説明が載っている。

学校で成績のよい級友を「あの人にはあたまがよい」と生徒たちは表現することが多い。いったいあたまをよくするとはどんなことが考えられるのだろうか。

一方、あたまがよくて非常識な人間は今からの世の中では邪魔ものになる。

と力説しながら私はあたまとは「あ」は明るさ「た」はたくましさ「ま」は真面目さの頭文字のことだと確信していると言っている人がいる。

即ち「明るさ」は健康な体とところ、表情、言葉など他者と共に生きていくための貴重な財産。

「たくましさ」は考えていることを実行に移せる

積極的な行動力や意志が強く何ごとにもくじけない精神力。

「真面目さ」は善悪、正不正を弁え、決して人に迷惑をかけない生き方や

約束通りこつこつと責任を果たす誠実さ。

あたまという語句を用いた言葉の表現や比喩を並べてみると頭脳やその働きのことだけでなく

性格、人柄や感情など様々な意味合いを含んだものとして用いられている。

あたまが古い、あたまが堅い、あたまでっかち、あたまを冷やす、

あたまをかかえる、あたまにくる、あたまを丸める、あたまをもたげる、

あたまがきれる、あたまが低い、あたまが上がない。 ——

特に教師はいつの時代も保護者や生徒たちから

「あたまの下がる」先生と言われるようになってきたものである。

